

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校 伊豆高原分校	記載者	三田 薫子
------	----	-----	--------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 〈守る〉安全で安心な教育環境づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題●
学校の安全体制の強化				
ア 安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 研修を生徒の指導、支援に役立てたと感じる教職員 90%以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">教職員アンケート 100%</div> <ul style="list-style-type: none"> マニュアルで災害時の自分の動きが把握できた <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">教職員アンケート 100%</div> <ul style="list-style-type: none"> 災害時どのように行動すればよいか理解できた生徒 80%以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">生徒アンケート 74%</div>	<ul style="list-style-type: none"> 緊急体制訓練等4回実施(1回は伊豆伊東高校との初の合同訓練) 防災学習4回実施 外部講師による職員研修2回(防災・生徒支援)実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練や研修等は計画通り実施することができた。緊急対応や日頃の安全に関する知識や意識を高めることができた。 ○竜巻被害直後の防災学習や避難生活体験などを学年ごとに実施したことで、より具体的に災害時の行動について考えることができた。 ○研修により休みがちな生徒への配慮や指導について共通理解を図ることができた。 ●生徒の健康や安全に関する指導や配慮が適切に行われていたと考える保護者 95%だったが災害時の行動についての生徒理解度は前期より低下した。繰り返し学習したい。 ●急な引き渡し対応時に情報伝達の困難さがあった。適切な情報伝達意識を全員がもてる組織としたい。 ●来年度も今年度並みの計画回数の中でいろいろな場面を想定した訓練をしていきたい。
人権を尊重した教育				
イ 互いを認め合い人権を尊重した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 友達を思いやる行動ができた生徒 90%以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">生徒アンケート 79%</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権を意識して指導、支援ができた教職員 100% <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">教職員アンケート 92%</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">保護者アンケート 90%</div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒集会で生徒会企画レクリエーション2回実施 ほっこりエールタイムを設定し生徒が指名した教員との個別相談実施 人権生徒アンケート2回実施 外部講師による職員人権研修を1回実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒集会では、全員が楽しめるレクリエーションを生徒会役員が考え実施。シッティングバレーなどのチーム戦では仲間と協力しながら楽しむ様子が多く見られた。 ○ほっこりエールタイムで生徒が話したいことを指名した教員と個別に話せる時間を設けた。これまで聞けなかった相談内容に応じることができたり、生徒の現状を早めに把握できたりすることができた。 ●生徒アンケートでは、友達を思いやる行動ができた生徒は前期結果76%からは増加した。具体的な行動について意識できるようにしたい。 ●どこまでが人権で、社会性を

					育てる指導かがわかりにくい面がある。人権チェックの実施を定期的に行いたい。
--	--	--	--	--	---------------------------------------

(2) 〈育む〉 確かな学力や豊かに生きる力の育成

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題●
	学びの充実				
ア	生徒が主体的に学べる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業が分かると答えた生徒 90%以上 生徒アンケート 90% 保護者アンケート 98% ICT を効果的に活用できたと感じる教員 80%以上 教職員アンケート 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習を窓口に主体的・対話的な生徒の姿を目指した研修を実施 授業カードや指導案の書式改善(評価規準明記) 外部講師による助言を受けた授業研究 2 回実施 保護者、生徒アンケート 2 回実施 外部講師による職員研修 1 回実施 ICT 活用実践例の共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による指導助言により、授業改善意識が高まった。 参観日を年間 7 回(うち 2 回は通常の授業)実施。保護者生徒アンケートは高評価 授業づくりについて引き続き研修し、今後は教科目標および評価をより意識して行っていきたい。 作業学習では生産物の在庫管理や野菜の生育記録などに ICT を活用することで、生徒が作業計画を考えやすくなった 校外学習等の事前事後学習では各学年とも調べ学習等で ICT を活用。映像や画像等を表示することで生徒がわかりやすく学ぶことができた。 職員の ICT 研修は継続して実施し、生徒の学びの支援となるよう活用できるようにしたい。
	キャリア教育の充実				
イ	自分らしく生きるための自立と社会参加を目指した進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携しながら実習を実施し、進路決定に向けた関係機関との連携ができたと考える教員 80%以上 教職員アンケート 92% 	<ul style="list-style-type: none"> 2、3 年職場実習を年 2 回実施 1 年集中作業、職場見学、職場短期実習を実施 2 年東部キャリア教育スクール参加 実習希望調査および実習後 面談、校内ケース会議実施 3 年移行支援会議を年 2 回実施 職員事業所見学実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 面談、校内ケース会議などを通じて保護者や生徒の意見を確認し尊重しながら実習先や進路先にむけた進路指導をすることができた。 関係機関との連携により、移行支援会議やケース会議の実施ができた。 他校生徒と一緒に学べたことで、生徒と教員の進路学習への意識が高まった。将来働きたい生徒の割合上昇。 保護者の要望と生徒の実態に隔たりがあるケースについては、早めに進路の方向性を個別に共有できるよう対応したい。
	特別支援教育の専門性の向上				
ウ	自分の課題、目標に沿った研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研修を教育活動に生かした教員 90%以上 教職員アンケート 100% 自分の課題のテーマを研修できた教員 90%以上 教職員アンケート 96% 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が授業担当の作業学習で校内研修を実施 初任者研修および新任者研修の実施 夏季職員研修を 7 回実施 外部研修の報告や情報を全体に周知 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各作業班の活動では生徒の主体的な姿、対話的な姿が多く見られるようになった。 初任者研修を内容により新任者や希望者も一緒に受けられるようにしたことで基本研修の充実につながった。 他校へ提供する研修資料や他校の研究発表の資料について校内で報告連絡することで職員の視野が広がった。

					●生徒指導上の対応力について、今後もケースごとに情報共有しながら職員全体で対応力を高めたい。
--	--	--	--	--	--

(3) 〈つなぐ〉学びと生活を支えるための連携づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題●
校内における連携体制の構築と情報共有					
ア	途切れのない支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 今後の対応方法について学年部会、ケース会議等を踏まえ、学部、学年で情報共有することができたと感じる教員 80%以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">教職員アンケート 96%</div>	<ul style="list-style-type: none"> 入学希望者のうち欠席の多い生徒対象に3日間の体験入学の実施 校内ケース会議 6事例 外部機関が参加したケース会議 2事例 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○入学希望者が3日間登校から下校時間までの体験入学をすることで学校生活のイメージを持つことができ、中学校での進路指導につながった。 ○関係機関との連携により、より具体的な対応方法を確認しケース会議の実施ができた。 ●欠席の多い生徒や個別対応が必要な生徒等については、毎週末に行っている生徒の情報共有を引き続き継続していきたい。
センター的取組の充実					
イ	情報共有と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 支援内容、要請事項を校内で共有、発信できた <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">教職員アンケート 92%</div>	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の支援内容等の情報共有、発信を年2回実施。 週1回生徒の情報共有、発信を終礼で実施 コーディネーターより外部の教育相談10件、地域支援報告9回実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員で全生徒の支援内容等を確認することで、基本的な状況を把握し協力し合うことができた。 ●進路相談の参加者の本校への理解(入学資格や教育課程について)が不十分な傾向があった。中学校の進路指導への効果的な支援ができるとよい。
「共生・共育」の充実					
ウ	併設校、地域との共生・共育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 今後の共生・共育に期待がもてると答えた教員 90%以上 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">教職員アンケート 84%</div>	<ul style="list-style-type: none"> 各作業班で共生共育を意識した取り組み実施 伊豆伊東高校との交流授業の実施 保育園での読み聞かせ活動の実施(2年) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○工芸班がいで湯っこ市場で製品販売実施。園芸班が伊豆伊東高校に花壇アンケート実施や生徒会と芝生アート共同制作活動実施。木工班が伊豆伊東高生と芝生アート交流実施、保育園等にベンチの寄贈。エコワーク班が伊豆伊東高校や放課後デイサービスにアンケート調査実施。陶芸班がシャボテン公園などの受注作業実施。地域での共生意識が高まった。 ○伊豆伊東高生と体育で授業交流実施。伊豆伊東高生が伊豆高原分校生が楽しめるレクリエーションスポーツを考え、授業で実践。感想を伝え合い理解が深まった。 ○2年国語では近隣2か所の保育園に読み聞かせ活動実施。幼児への理解が深まった。

					●伊豆伊東高校との交流機会を作りたい。(ビジネス、アート、スポーツ科の授業へ生徒の授業参加など)
--	--	--	--	--	--

(4) 〈高める〉わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題●
ア	充実した業務ができる職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に向き合う時間が十分確保できた職員 90%以上 教職員アンケート 100% ICT を公務に活用できた教職員 70%以上 教職員アンケート 89% ホームページの更新を行った教職員 100% 教職員アンケート 84% 	<ul style="list-style-type: none"> 会議や面談期間を計画的に設定実施。 研修や教え合いにより、ICT 機器の準備操作や業務分担実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に会議や面談期間が実施できたこと、生徒支援の情報共有ができていて、教員間で連携して生徒指導や分担業務に従事できた。 ○ICT 機器の操作やホームページ、COCOO の掲載の仕方等を情報課を中心に職員間で教え合い経験者が徐々に増えて協力し合える雰囲気が高まってきている。ホームページの更新回数は去年の 5 倍以上。 ●来年度は書類作成について、デジタルプラットフォーム等新しいフォームへの移行を適切に行っていききたい。
イ	不祥事根絶	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事を身近なことと意識して不祥事ゼロを目指した教職員 100% 教職員アンケート 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 県内不祥事の公表周知 4 回 ヒヤリハット事例○件。その都度周知し注意喚起実施。 不祥事根絶事例研修(グループワーク) 4 回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○事例対応についてのグループワークでの意見交換が活発に行われ、自分事として意識し、教育公務員としての行動意識が高まった。 ●来年度も継続して不祥事やヒヤリハットの定期的な周知や研修を実施し、意識を高めた。